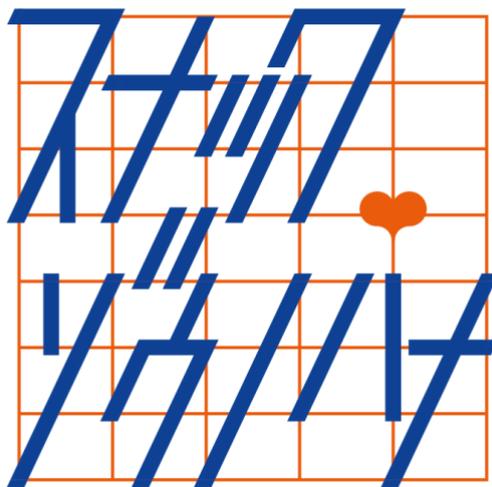


アーティストと対話する交流酒場
スナックゾウノハナ「ナイトタイム・ビジターセンター」
SNACK ZOU-NO-HANA vol.30 NIGHT TIME VISITOR CENTER

開催日時：2023 年 7 月 6 日（木） - 8 日（土） 18:00 - 22:00

会場：象の鼻テラス



Design: Adrian Steckeweh

象の鼻テラスでは、7月6日（木）-8日（土）の3日間、パシフィコ横浜で行われる国際アートフェア「Tokyo Gendai」の開催に合わせ、多ジャンルのアーティスト・クリエイター・アート関係者ら多彩なゲストとトークを楽しむ酒場や、ダンスフロアがカオティックに交差する交流スペース「SNACK ZOU-NO-HANA『ナイトタイム・ビジターセンター』」を実施します。

「SNACK ZOU-NO-HANA」は、象の鼻テラスのアートプロジェクトで、アーティスト・クリエイターらがホストとなり来場者と対話する機会創出を目指してきました。今回、総勢約13組のアーティストが集結し、妖しい光に包まれた会場の中スナックのブースを連ねます。会場内では他に、観光案内サービス機能を拡張したインフォメーションスペースや、象の鼻テラスと協働して展示やワークショップをしてみたいアーティストの相談窓口を設けます。

この機会にぜひ掲載のご検討をお願いいたします。

開催概要

タイトル	スナックゾウノハナ vol.30「ナイトタイム・ビジターセンター」 SNACK ZOU-NO-HANA vol.30 NIGHT TIME VISITOR CENTER
開催日時	2023年7月6日（木） - 8日（土） 18:00 - 22:00 *象の鼻テラスは10:00より開館
会場	象の鼻テラス（横浜市中区海岸通1丁目）
会場演出	Adrian Steckeweh
参加アーティスト（五十音順）	Aokid、EAT & ART TARO、伊藤幹太、大川原脩平、Osono、椋橋彩香、仙如、タナカマコト、南雲麻衣、NPO 法人 BEPPU PROJECT、マックロマンズ、森下真樹 ※変更の可能性あり
入場料	無料（飲食別）
主催	象の鼻テラス
URL	https://zounohana.com/events/post-1212/

取材に関するお問い合わせ

象の鼻テラス 秋山、大越 E-mail: press@zounohana.com | TEL 045-661-0602 | FAX 045-661-0603
〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通1丁目 | WEB <http://www.zounohana.com>

見どころ

■ Adrian Steckeweh (エイドリアン・シュテッケヴェー) による会場構成

建築家・CGI (Computer Generated Imagery) アーティストの Adrian Steckeweh の会場演出で、象の鼻テラスが妖しい光に包まれた異色な空間に変身します。

作品介绍



SemiMemory | NEWVIEWAWARDS 2022 GRAND Prize



Silent Introduction | ミナトノアート 2022



あいだのお湯 | 道後オンセナート 2021

■ DJ による音楽とダンスフロア

東京をベースにヨーロッパやアメリカでも活躍するマルチ・アーティスト、マックロマンズさんを DJ に迎え、ダンスフロアを象の鼻テラス中央に設けます。

■ 特別ゲストのスナックコンテンツ

[3 日間出店スナック]

1) 「スナックおごり」アーティスト：EAT&ART TARO

好きなメニューを注文しその分のお金を支払うのだけど、受け渡し場所に出てくるのはひとつ前の人のオーダー。前の人から奢ってもらい、次の人へ奢ってあげるお店。期間中、象の鼻カフェは「スナックおごり」として営業します。

2) 「占い処 BIWANOTERA」占い師：仙如 (スピリチュアルカウンセラー)

一回 10 分の手相やカードリーディングで、気軽に楽しめる占いコーナー。

3) 「うそのほんとうのうその」アーティスト：大川原脩平 (舞踏家/Dealer)

大川原脩平さんが営む「うそのたばこ店」を出張開店。トランプマジックを見せてくれるコーナーとか思いきや……。

4) 「スナックしずか…？」アーティスト：南雲麻衣 (パフォーマー/アーティスト)

手話は静か……？いえ、どうでしょう。普段とは違ったスナックで筆談も交えながら甘くてセクシーな手話を紹介します。

5) 「地獄寺研究者がひらく懺悔スナック」アーティスト：椋橋彩香 (地獄寺研究者)

お酒を片手に、タイの地獄寺研究者とあなたの“地獄”について話す夜はいかがですか。

[日替りスナック]

多彩なゲスト陣による日替わりスナック。それぞれのカウンターでいろいろな会話をお楽しみください。

7月6日 (木)

Aokid (ダンスアーティスト)、Osono (声と身体のアーティスト/ピラティスインストラクター)

7月7日 (金)

Aokid (ダンスアーティスト)、タナカマコト (切り絵作家)、森下真樹 (振付家/ダンサー)

7月8日 (土)

伊藤幹太 (アーティスト/プロデューサー)、Osono (声と身体のアーティスト/ピラティスインストラクター)、NPO 法人 BEPPU PROJECT

■ [i] インフォメーションコーナー

普段から象の鼻テラスの受付にて案内している観光情報を拡張。本イベント参加アーティストの関連情報や、横浜のアート関連施設の情報、ローカルな横浜のコミュニティ情報などが集まるスペースとなります。

■ Artist Meets Zounohana 相談窓口

今後、象の鼻テラスと協働して展示やワークショップなどをしてみたいという意欲を持ったアーティストと象の鼻テラスが出会うための窓口を設置します。ミーティングを希望するアーティストの方々ぜひポートフォリオを持参の上、お集まりください。



参加アーティスト プロフィール *五十音順



Aokid (ダンスアーティスト)

工作(美術)とダンス、音楽、あるいは説明が繋がってしまう感じの創作活動を模索。舞台や野外、机の上、音源、様々な形に変容し世界の中で偏在しながら内部や外部から物事やコミュニティの変化を試みている。作り替えていくことはいつでも始められることなのか、1人で、誰かと、考え、動き続けたい。



Adrian Steckeweh エイドリアン・シュテッケヴェー (アーティスト)

建築家・CGI (Computer Generated Imagery) アーティスト。1987年生まれ。ドイツ出身。東京都在住。Omega Centauri (オメガ・センタウリ)の作家名で仮想現実と現実の狭間で実験を試みながら Instagram エフェクトやグラフィックなども制作する。Instagram のアカウント名は「@omega.c」



EAT&ART TARO (アーティスト)

調理師学校を卒業し飲食店勤務を経てから、ギャラリーや美術館などでケータリング、カフェのプロデュースなどを行う。その後はアーティストとして、食をテーマにした作品を制作。これまでに、瀬戸内海の島々で作った「島スープ」、会ったことのない人と食を送り合う「食通」など食をテーマにしたものを多数発表している。大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭などの芸術祭で多く活動している。



伊藤幹太 (アーティスト / プロデューサー)

1995年横浜出身。食・アート・コミュニケーションをテーマに活動。YADOKARIでプロデューサーとして働く傍ら、都市と農をつなげる団体「ハタケユライ」や大学での講師業など幅広く行う。2023年、恋愛や関係性への興味から、残しておきたい記憶をサンドイッチのレシピとしてアーカイブする活動「Sandwich Archives」をスタート。企画：恋話サンドイッチスタンド「LOVEWAY」で「SNACK ZOU-NO-HANA」に参加。



大川原脩平 (舞踏家/Dealer)

現代作家の仮面を売る専門店「仮面屋おもて」や、たばこのふりをしてトランプを販売するカフェ「うそのたばこ店」など、ユニークな店舗を展開する「株式会社うその」代表取締役。一般の人の顔を買取販売するプロジェクト「あの顔」がやたら人気。暇なので、主に立ったり座ったりする。最近は手品師をしている。



Osono (声と身体のアーティスト/ピラティスインストラクター)

「身体は海、背骨はうたう」背骨の記憶をたどる旅を歌に残している。13歳からダンスを通した身体表現を始める。20歳からピラティスを通した身体の学びを始める。26歳から作詞作曲・演奏活動を始める。



棕橋彩香 (地獄寺研究者)

1993年東京生まれ。早稲田大学大学院文学研究科にて美術史学を専攻、2022年博士後期課程単位取得満期退学。現代タイにおける地獄表現、「タイの地獄寺」を研究テーマとする。早稲田大学會津八一記念博物館助手を経て、現在は明星大学非常勤講師。タイでのフィールドワークをもとに研究・講演・執筆活動を進めている。著書に『タイの地獄寺』(青弓社、2018年)。



仙如 (スピリチュアルカウンセラー)

神奈川県逗子市在住。医療福祉職を経て、鍼灸院から進化した瞑想スペース「BIWANOTERA」主催。女性修験道行者として日々の修行を続けながら、聖なる存在たちの導きのもと、こころ・からだ・スピリチュアル3つの側面から相談に応じ、その人らしい輝きを開花させる神事や瞑想会などを行っている。著書『出家した犬』
鑑定実績は中華街にて1万人以上、現在は主にイベント出演とオンラインにて鑑定を行っている。



タナカマコト (切り絵作家)

ハサミで切り絵をする切り絵作家。コンビニのバイト中、捨てられるレシートを使って下書き無しでレジ横で切ってみたのがきっかけとなり今に至る。細かな下書きをせず、レシートや書籍に印字された言葉を残しながら形を切り抜いたり、写真を切り抜くことで、媒体のもつ意味と切り抜かれた形を関連づける独自のスタイルで活躍する。近年ではCDジャケットやTVCM、MV、店内装飾など、切り絵を通して活躍の幅を広げている。



Photo: 田中洋二

南雲麻衣 (パフォーマー/アーティスト)

平成元年生まれ。神奈川県逗子市出身。

文化施設の運営・企画の仕事の傍ら、ダンサーなどアーティストとしても活動する。当事者自身が持つ身体感覚(ろう[聾]する身体)を「媒体」に、各分野のアーティストと共に作品を生み出している。また、美術館や子ども向けのワークショップを積極的に行う。

協力：7月6日 吉田麻莉(元筆談バーテンダー)、7月7日 善岡修(ろう俳優)

NPO 法人 BEPPU PROJECT



BEPPU PROJECT は、世界有数の温泉地として知られる大分県別府市を活動拠点とするアート NPO。2005 年 4 月に発足して以来、現代芸術の紹介や普及、フェスティバルの開催や地域性を活かした企画の立案、人材育成、地域情報の発信や商品開発、ハード整備など、さまざまな事業を通じてアートが持つ可能性の普遍化を目指し、アートを活用した魅力ある地域づくりに取り組んでいる。



Photo: Yusuke Sato

マックロマンズ (DJ)

東京ベースの JAZZ DJ。80 年代、ロンドンを拠点にポストパンクのフィールドでミュージシャンとして活動していた。2019 年、ソロ・アーティスト「KOTA®」名義で海外の音楽活動を再開、ヨーロッパツアーでは英仏独伊など 18 の都市でプレイした。2020 年には P.I.L、ブロンディー、モリッシー、ダムドなど往年のレジェンドたちが集結したことで話題となったロサンゼルス巨大フェス「CRUEL WORLD」にただひとりの日本人アーティストとして出演を果たした。



森下真樹 (振付家/ダンサー)

幼少の頃から転勤族に育つ。東京、千葉、松山と 3 つの小学校を渡り歩き早く友達をゲットするためにいろいろな遊びを開発。その頃の遊びがダンスのルーツ。演劇、音楽、美術、漫画など様々な分野のアーティストとコラボし活動の場を広げる。これまでに 10 カ国 30 都市以上で作品を上演。近年の代表作に現代美術家 東芋とのコラボ作品『錆からでた実』や、MIKIKO (演出振付家)、森山未来 (俳優、ダンサー)、石川直樹 (写真家)、笠井靨 (舞踏家、振付家) の振付を自身がソロで踊る「ベートーヴェン交響曲第 5 番『運命』全楽章を踊る」やカンパニー森下スタンドによる群舞『踊れ、第九!』などがある。100 人 100 様をモットーに幅広い世代を集めワークショップや作品づくりを行う。周囲を一気に巻き込み独特な「間」からくる予測不能、奇想天外ワールドが特徴。

スナックゾウノハナについて



より市民に開かれたテラスを目指し、人々の出会いと交流を生み出すサロンとして始めた「スナックゾウノハナ」。アーティストと来場者をつなぐ交流の場、音楽ライブや、その他講座などのイベントを通して、象の鼻テラスの営業時間外の活動により人が集う場所と時間を創出。テラスを利用するすべての人に、日常的に文化体験をする場や人との出会いを提供します。

象の鼻テラスについて



Photo: Katsuhiko Ichikawa

象の鼻テラスは、横浜市開港 150 周年事業として、2009 年 6 月 2 日に開館しました。横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内に、アートスペースとカフェを併設したレストハウス (休憩所) としてつくられ、横浜市の新たな都市ビジョン「文化芸術創造都市クリエイティブシティ・ヨコハマ」を推進する文化観光交流拠点の一つです。開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、さまざまな人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、多ジャンルのアートプログラムを開催しています。象の鼻テラスは横浜市の委託により、スパイラル/株式会社ワコールアートセンターが運営しています。